

十二月の俳句

(2 0 2 1 年 1 2 月)



M e r r y C h r i s t m a s



目次

たべもの俳句	モノロク俳句	歳時記俳句
10	6	1
）	）	）

< 師走 >

寒冷，明冷，向寒，厳寒，初冬，師走，極月，歳末，歳晚，大晦日

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに

巢鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

ベートーベン十二月には来日し
運命のフォルティシモや十二月
とげぬきの地藏青空十二月
ニユータウン青空がよし十二月
極月の財布あふれる小銭かな

検温の異常はなくて冬の薔薇
検温を拒み孤高の冬の薔薇

寒あやめ弱音を吐かず花咲かす
悲しくてされど生き抜く実千両
千両や舞台なくともきらり実を
短日の今日の記憶も消えさりて
ポインセチア愛愛愛の空回り
ポインセチアSNSを恐れけり

枇杷の花 AI 未来やや不安



ボーナスが懐かしきけり年金で

侘助が光寂しく咲きにけり
ルノアルの女にセーター着せてみる

古曆捨てて辻褃合わせけり
古曆予定引き継ぎ役目終え

霜柱かがやかせたる朝日かな
火の用心団地の夜の拍子木や

枯れ木にもそれぞれ使命枝あまた
枯木立夜の彼方に何を見る

山眠る米寿を過ぎて長い旅
ルポライターテレビうるさく街師走
師走来るぼきりぼきりと背骨かな
霊園へ師走の道が続いてる



藪柑子大を求めず密やかに
主張せず神に繋がる藪柑子

冬の灯を消して記憶もまた消して
難民多し地球は冬旱
裸木になって超絶一樹立つ

年々にまた一枚と着ぶくれる
着ぶくれてデブがまたデブどてら着て
ライオンが着ぶくれてしている我が家かな
東京人惰性のままに着ぶくれる

ヒートテック二枚重ね着冬満月
地下鉄もときに地上に冬銀河
スニーカー未来のように冬銀河

地下鉄の路線は迷路冬星座



重力波時空さざなみ冬の星

テレワークパソコンいまだクリスマス
クリスマスそれよりお墓どうするか
仏壇にろうそく灯すクリスマス

雪が降る今日は一日雪が降る
護憲護憲と唱えて隠す雪嵐
憲法を改正できず雪の果て
雪積もり有刺鉄線棘隠す
昭和にも平成にも降り外は雪

底冷や巢鴨の要おじぞうさん
枯菊に残る匂ひを嗅ぎ取って
枯れ菊の名残の花の執念や

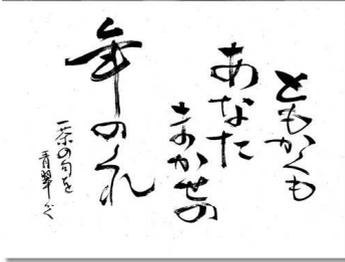
無宗教されど伝統松飾り
ゆく年の流れるままに流れゆく



ゆく年や今朝も菓を数種類

駅前の大樹蒼々年の暮
指揮棒に太鼓が応え年暮るる

大晦日厭とは言えず世の定め
除夜の鐘全身全霊反り身かな



モノロク俳句

モノロクし鬼のカクラン十二月
モノロクし寂しさあとひく十二月
モノロクし口数少し十二月
極月にたましひ捨ててモノロクす
モノロクしモノロクの夢十二月
モノロクし赤羽で飲む十二月
モノロクしこんがらがって十二月
モノロクし意地を張らずに笹鳴けり
モノロクしまぶたの裏に霜の花
モノロクし遊びもできず龍の玉
不器用に生きてモノロク龍の玉
モノロクしポインセチアの赤眩し



寒禽が庭で遊んでモーロクす
モーロクし足ること知って実万両

熱爛は苦手となりしモーロクし
モーロクし人間やめる冬の百舌

モーロクし見栄は捨てたし裸木や
裸木やモーロクすれどふんばって
モーロクし無用の用の年の内

モーロクし花のうれひやシクラメン
モーロクしおぼろ哀しきシクラメン

モーロクしされどセーター赤が好き
モーロクし自問自答の懐手

酔なまこを箸ではさめずモーロクす
モーロクしやることもなく空っ風



ちやんちやんこモーロクすれば似合いしか
モーロクし着るをはばかりちやんちやんこ

モーロクす全人類や冬ざるる
モーロクし湯たんぽの位置迷いけり
モーロクしともあれ居場所数へ日や

モーロクし赤子も泣いて冬木立
モーロクし突き放されて冬木立

歯がゆさやモーロク進む冬至の日
モーロクし終はりは何処冬至風呂

モーロクしうば捨て山は冬銀河
凍て星よモーロクしても今が好き

モーロクしふつつ思い年の暮れ



モ一ロクし水の流れと年の瀬や
モ一ロクし毀るる夜の虎落笛

なにひとつなさずモ一ロク年用意
モ一ロクし余命短く年用意
年用意所詮男はモ一ロクし

初雪もモ一ロクすれば興もなく
雪の夜や雪になりたしモ一ロクし
モ一ロクし記憶今更外は雪
新雪やモ一ロクすれど死なない気
モ一ロクし名を捨て雪の弟子となる

モ一ロクし師走年の瀬我は酒
年忘モ一ロクすればすべて塵

除夜の鐘聞くこともなくモ一ロクし
百八のモ一ロクありて除夜の鐘



たべもの俳句

おでん酒何はともあれ十二月
高野豆腐静かに煮付け十二月
十二月赤いキツネの独り者

木枯らしやドライブインのカツカレー
蕪ごとく執着を捨てよこの世では
蕪を漬け赤がほしけれ唐辛子

ぶりとかぶみぞれみそ汁ぽかぽかと
おでん煮る土鍋の傷や吾の傷
おでん煮る頭の中に空間が
だいこんかたまごかすじかわがおでん
だしを取る利尻昆布でおでんかな

マグロ追う津軽海峡十二月



人間に一網打尽真鱈かな

手羽元で参鶏湯風冬銀河
漱石忌中華樂しむ神楽坂

もつ煮込みキムチも加え冬ビール
大根をじっくり茹でて透き通る
友にいう大根土産持つて来い
大根の葉っぱを炒めふりかけに

牡蠣フライサクと齧れば潮の香が
吉野家で一人牛鍋外は雪

あたり馬券あばずれと人の桜鍋
ぶちぬきの部屋が似合いの桜鍋

すき焼きは万能料理パスタにも
白菜で二品三品常備菜



白菜はくたくたに煮て食ぶるべき

寒波来る福神漬はより赤く
唐揚げのテイクアウトで年忘れ

冬の夜のまったりココア句集読む
冬の夜をチーズフォンズに月の色
寒き夜に一人のワイン飲みすぎて

雪の朝濁り酒にて雪見酒
岡山の牡蠣を酒蒸し吟醸酒

ホクホクに冬至かぼちゃを甘く煮る
雑炊やあんばい微妙卵蒸す

クリスマス牛すねほろほろほつこりと
クリスマスされど定食独身者
クリスマス丸鶏飾るリボンかな



駅そばで体温め十二月
鍋焼きの卵を崩すタイミング

鰯大根和風洋風中華風
お歳暮の粕漬け焼いて朝食を

後期高齢紅白膾年用意
年用意黒豆だけは自家製で

イカスミのポテトチップで冬ビール
てんやからテイクアウトの晦日蕎麦



